

発明と生活 5/6月号

第 50 回発明大賞特集号

May / June 2025 No.642



発明大賞 本賞 (有)ショウナンエンジニアリング

●第 50 回 発明大賞特集号に寄せて

公益財団法人日本発明振興協会 会長 石井 卓爾

●第 50 回 発明大賞表彰式・懇談会

独創性と実用性に秀でた発明考案を顕彰

●審査講評

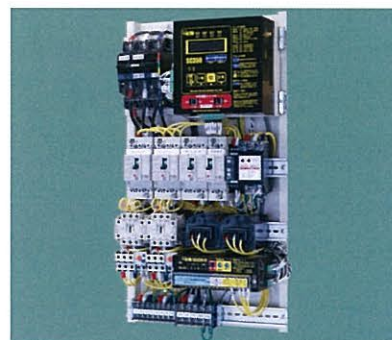
独創的な研究開発が実を結んだ

発明大賞審査委員長／東京理科大学栄誉教授 藤嶋 昭

●第 50 回 発明大賞 受賞技術



発明大賞 東京都知事賞
(株) 西部技研



発明大賞 日本発明振興協会会長賞
小松電機産業 (株)



発明大賞 日刊工業新聞社賞
(株) ダイレクト 21

JSAI

The JAPAN Society
for the Advancement
of Inventions

公益財団法人 日本発明振興協会

第50 回発明大賞特集号に寄せて



公益財団法人
日本発明振興協会 会長

石井 卓爾

日本発明振興協会と日刊工業新聞社の共催により昭和 50 年に創設された発明大賞表彰事業は、令和 6 年度に 50 周年の記念すべき年を迎え、3 月 13 日、明治記念館（東京都港区）において第 50 回発明大賞表彰式ならびに発明大賞 50 周年記念祝賀会を開催いたしました。

表彰式は、文部科学省 研究振興局 振興企画課奨励室長 水野浩太様、発明大賞審査委員長で東京理科大学栄誉教授の藤嶋昭様、東京都産業労働局 商工部 創業支援課 総合支援機構担当課長代理 谷口佳世様、創設当初より審査事業において応募案件の予備審査に関わっていただいている東京都立産業技術研究センター理事長の黒部篤様をはじめ、共催の日刊工業新聞社 代表取締役社長 井水治博様ほか、ご来賓の皆様方のご列席のもと挙行いたしました。

祝賀会には、コロナ禍で表彰式が開催できなかった回の受賞者の方々やこれまで本事業に携わってこられた委員の方々など多くの発明大賞関係者の皆様のご高来をいただき、賑々しい会となりました。また、発明大賞表彰事業の審査に永年貢献された藤嶋審査委員長はじめ 6 名（当日出席 5 名）の委員に感謝状を贈呈させていただきました。表彰式および祝賀会の開催にあたり、公務ご多忙中、ご臨席をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

4 月 18 日には科学技術週間にあわせ「優秀発明発表会」を開催し、受賞者の方々による発明技術の発表並びに懇親会をもって、第 50 回発明大賞表彰事業に関する全ての行事を滞りなく終了することができました。

ここにあらためて、受賞者の方々に衷心よりお祝いを申し上げますとともに、発明大賞の事業推進にあたりご関係者の皆様に賜りましたご支援に、心から感謝を申し上げる次第です。

発明大賞表彰事業は、発明振興事業にご理解をいただいた多くの協会関係者のご寄附による基金からの果実と、当事業推進のために関わっていただいた多くの方々のご協力、共催の日刊工業新聞社のご支援をいただき運営をいたしております。これまでの 50 年、画期的な発明考案などを通して、わが国の産業の発展と国民生活の向上に業績を上げられた中堅・中小企業や個人、またはグループの方々を表彰し続け、表彰件数は実に 1,447 件に達しました。表彰を受けられた後、さらなる努力を積み重ねられ、東京都知事賞、文部科学大臣表彰、黄綬褒章ほか叙勲の栄等々に浴された方も数百名に及びます。

第50 回発明大賞特集号に寄せて

発明大賞を受賞した優れた技術が社会に貢献し、また産業の発展に寄与していることは、関係各位とともに慶賀の至りであります。

また、本表彰事業をご後援くださっている諸機関等も創設時は 7 団体でしたが徐々に増え、第 46 回からは日本中小企業診断士協会連合会、東京都中小企業診断士協会が加わり、現在では 11 の機関からご後援をいただいております。本事業への共感の輪の広がりを心強く思います。

発明大賞の最終審査は、審査委員長の藤嶋昭先生のもと、文部科学省ならびに関係諸機関を代表する諸先生方のご協力を得て、厳正かつ公正な審査を行っております。今回は 53 件の応募があり、機械、電気、日用品、医療・保健など、実に多岐にわたる発明考案の中から審査の結果、25 件が表彰されました。設立当初、応募案件は電気や機械装置的なものが多かったのですが、医療やバイオ関係の応募も増え、さらに近年はソフトウェア関係も増えており、時代を感じるとともに発明大賞のジャンルの幅広さを実感しております。50 周年から次の節目への 10 年は想像もできない変化の時代が予測されますが、変化に適応した発想をもって関係者が努力し、当事業の評価をさらに高めていけるよう努めて参ります。

第 51 回発明大賞の取り組みがすでに始まりました。文部科学省、東京都をはじめ、関係者各位への後援依頼や共催者である日刊工業新聞社並びに関係広報先への告知、当協会発明大賞推進委員会委員長である笠原常任理事を中心とした担当事務部門・専門委員等との協議を進め、7 月から新たな応募受付を開始いたします。今年度も、魅力ある案件が多数応募されることを期待しております。

これからも発明大賞表彰事業を充実させ、中堅・中小企業の方々の時代適応の努力を後押しできるように努めるとともに、激変の時代を乗り越え、斬新な技術の発明を続けられる中堅・中小企業の活躍による日本の継続的繁栄に、当事業の継続がいささかなりとも貢献できることを願っております。

これからも、本事業に変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。特集号発刊のご挨拶とさせていただきます。

栄えある50回目の発明大賞 新たに25件の画期的な発明考案が 歴史に刻まれる

今回で50回目を迎えた「発明大賞」表彰式・懇談会が、令和7年3月13日、明治記念館（東京都港区）曙の間で執り行われた。会場には、多くの来賓、関係機関、主催関係者が集い、50年の歴史に加わった優れた発明考案に惜しめない賞賛が贈られた。



記念写真（受賞者と関係者、主賓、主催者）



発明大賞 本賞
（有）ショウナンエンジニアリング 代表取締役社長 佐澤 昌治 氏



発明大賞 東京都知事賞
（株）西部技研 開発本部 本部長 井上 宏志 氏



発明大賞 日本発明振興協会会長賞
小松電機産業（株） 代表取締役 小松 昭夫 氏



発明大賞 日刊工業新聞社賞
（株）ダイレクト21 代表取締役会長 岩本 典裕 氏



開式のことば
発明大賞推進委員長・日本発明振興協会 笠原 文善 常任理事



文部科学省 研究振興局より祝辞
振興企画課 水野 浩太 奨励室長（塩見 みづ枝 局長の祝辞を代読）



審査委員長より審査報告
東京理科大学 名誉教授 藤嶋 昭 氏



閉式のことば
日本発明振興協会 森 洋二 副理事長



お祝いのことば 日本発明振興協会 加藤 忠郎 理事長



懇談会（受賞者7名による体験発表）

祝 辞

発明大賞表彰事業の 半世紀にわたる 科学技術振興への大きな寄与に 心から敬意を表します

文部科学省 研究振興局長 塩見 みづ枝

第50回発明大賞表彰式が挙行されるにあたり、はじめに発明大賞表彰事業が50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

本日、栄えある発明大賞並びに各賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。また、これまで支えてこられたご家族、関係の方々にも、お祝い申し上げます。

発明大賞本賞を受賞された有限会社ショウナンエンジニアリングの発明は、強力なマグネットの磁力を利用して金属加工時のクーラント液中に混在する細かい鉄粉同士が絡まりながらフィルターの役割を果し、これまで捕獲しきれなかった切粉や非磁性体の不純物等の捕獲を可能とする、優れた精密ろ過装置と伺っております。

皆様の日頃からの技術開発へのご研鑽とご尽力に対しまして、深く敬意を表しますとともに、本日の受賞を契機に、さらに、我が国の産業の発展と国民生活の向上に貢献する優れた発明が創出されることを期待しております。

日本発明振興協会並びに日刊工業新聞社が、半世紀にわたり、優れた発明を考案された中堅・中小企業の方々と顕彰し、我が国の科学技術の振興に大きく寄与されてこられたことは、大変意義深いことであり、心から敬意を表します。これからも技術者や開発者の大きな励みとなる本表彰事業が末永く継続されることを願っております。

文部科学省といたしましても、大学や研究機関における研究成果を確実に社会実装するためのスタートアップの創出・育成の強化や、産学官が連携したアントレプレナーシップ教育の充実などを通じて、イノベーション・エコシステムの強化に取り組んでまいります。

結びに、日本発明振興協会並びに日刊工業新聞社の一層のご発展と本日ご列席の皆様方のますますのご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

発明考案を通じて産業の発展や国民生活の向上に寄与した中堅・中小企業、個人を表彰する「発明大賞」は、節目の50回目を迎えた。今回も、創意あふれる発明考案が多数寄せられ、25件が選定された。3月13日、会場の明治記念館（東京都港区）には、受賞者、関係者、来賓の方々など多数が列席し、表彰式・懇談会が華やかで雰囲気豊かな中執り行われた。表彰式・懇談会の後には、50周年を記念し、祝賀会も催された。



第50回発明大賞 表彰式・懇談会 独創性と実用性に秀でた発明考案を顕彰

表 彰 式

■応募53件から独創性豊かな25件を選定

発明大賞は、1975（昭和50）年に日本発明振興協会と日刊工業新聞社により創設され、中堅・中小企業、研究者や個人の発明家を対象に、優秀な発明考案を生み出し、成果を挙げた企業や個人を表彰してきた。50回目を迎えた今回も、文部科学省、経済産業省、特許庁、中小企業庁、東京都、東京都立産業技術研究センター、日本商工会議所、東京商工会議所、日本弁理士会、日本中小企業診断士協会連合会、東京都中小企業診断士協会の後援を受け、発明考案の公募が行われた。

2024年7月1日から9月30日の募集期間中に応募された発明考案53件が、協会から委嘱された専門委員による2回の予備審査を経て32件に絞られ、さらに技術評価や合同委員会の審議を経て、最終的に27件が審査委員会に付託され、厳正な審査を経て、25件（発明大賞本賞、発明大賞東京都知事賞、発明大賞日本発明振興協会会長賞、発明大賞日刊工業新聞社賞 各1件、発明功労賞7件、考案功労賞10件、発明奨励賞4件。発



日本発明振興協会
石井 卓爾 会長



日刊工業新聞社
井水 治博 代表取締役社長

明育成賞は該当なし）が選定された。

詳細は3月7日の日刊工業新聞特集紙面で紹介されている。

■「新たなイノベーションを実現し、未来を切り拓く力強い存在に」

明治記念館「曙の間」に、受賞者、関係者をはじめ、来賓として、水野浩太 文部科学省研究振興局 振興企画課奨励室長、藤嶋昭 発明大賞審査委員長（東京理科大学栄誉教授）、谷口佳世 東京都産業労働局創業支援課 課長代理、黒部篤 東京都立産業技術研究センター 理事長が列席した。

表彰式に先立ち、笠原文善発明大賞推進委員長より、発明大賞事業の経緯、関係各所への謝辞が述べられ開式。続く主催者挨拶で石井卓爾 当協会会長は「次なる未来に向けてさらなるチャレンジをしていただくことを大いに期待しております。多様な市場ニーズに対応した柔軟な技術開発戦略をもって、競争力を維持し、新たなイノベーションを実現し、中堅・中小企業の模範となるご活躍を期待しております」、井水治博 日刊工業新聞社代表取締役社長は「イノベーションを起こさなければ日本はこれから浮上することはできないという強い危機感を持っています。だからこそ、野性を取り戻し、自由な発



来賓の方々



受賞者代表挨拶

想で挑戦を重ね、未来を切り拓く力強い存在であってほしい。皆さんはその先頭に立つ方々です」と受賞者を激励した。

■優れた独創性、実用性を高く評価

藤嶋昭 発明大賞審査委員長より審査経過、受賞した発明考案の概要説明と講評（11～13頁参照）がなされ、表彰へと移った。発明大賞本賞受賞の（有）ショウナンエンジニアリング 代表取締役社長 佐澤昌治氏に石井会長より、発明大賞東京都知事賞受賞の（株）西部技研 開発本部本部長 井上宏志氏に谷口佳世 東京都産業労働局創業支援課 課長代理より、発明大賞日本発明振興協会会長賞受賞の小松電機産業（株）代表取締役 小松昭夫氏に石井会長より、発明大賞日刊工業新聞社賞受賞の（株）ダイレクト 21 代表取締役会長 岩本典裕氏に井水日刊工業新聞社代表取締役社長より、賞状と副賞がそれぞれ贈呈された。続いて、発明功労賞 7 件に対して、井水日刊工業新聞社代表取締役社長より、考案功労賞 10 件と発明奨励賞 4 件に石井会長より表彰状と副賞が贈られた（副賞は考案功労賞まで）。

表彰は厳かに進み、水野浩太 文部科学省 研究振興局 振興企画課奨励室長により塩見みづ枝 文部科学省研究振興局長の祝辞が代読された（8頁参照）。続いて、発明大賞本賞を受賞した（有）ショウナンエンジニアリング 代表取締役社長 佐澤昌治氏による受賞者挨拶が行われた（14頁参照）。最後に、当協会の森洋二副理事長により、受賞者へのお祝い、関係各位の尽力への感謝が述べられ、盛大な拍手とともに閉式した。

懇 談 会

■さらなる飛躍を一受賞を讃えあう

懇談会に先立ち、中庭にて記念写真の撮影が行われた。撮影のタイミングに合わせたかのように、曇り空の合間

から柔らかな陽光が差ししてきた。新緑を鮮やかに彩り、受賞者の栄誉を照らす、晴れやかな一幕となった。

懇談会では、東京都知事賞、日本発明振興協会会長賞、日刊工業新聞社賞の各受賞者、発明功労賞受賞者を代表して 4 名、計 7 名より、受賞した発明考案について、その発想の原点や開発の背景、課題への取り組みなどを交えた体験発表が行われた（15～17頁参照）。研究開発に込められた情熱や工夫の数々に、参加者は感心しあった。

開会にあたり、主催者を代表して当協会の加藤忠郎理事長より、「中堅・中小企業の発展には多くの要素が求められますが、『信用』こそが最も大切な要素です。皆様は公的機関からの評価を得たことで、社会的な信頼を獲得されました。これを大いに活用し、さらなる技術革新と企業の飛躍につなげていただきたい」と祝辞が贈られた。

続いて登壇した水田武詞 日刊工業新聞社 編集局科学技術部長は、「現場の困りごとを見つめ、当たり前を疑い、改善・解決につなげる発明が多いことに毎年感心させられます。今回の本賞では、切り粉をフィルターとして活用するという発想が、実際の製品として効果を発揮しており、非常に興味深く拝見しました」と講評。「常識を見直す勇気と、新たな視点を持ち込む柔軟さが、異分野の壁を超える発明を生む。今後も、産業界と社会に貢献する技術を生み出し続けていただきたい」と鼓舞した。

最後に、当協会の中村好隆専務理事が、「受賞者の皆様から発表していただいた発明考案のアイデアも、開発上のご苦労やエピソードも、たいへん興味深く拝聴しました。皆様には受賞製品にさらなる磨きをかけて、いっそう売上を伸ばして、世の中の発展にさらに貢献していかれることを期待しています。そしてまた、次なる発明考案を生み出して、この発明大賞にご応募いただければと願っております」とさらなる期待を込めて会を締めくくった。



受賞者より発明の経緯などが発表された

審 査 講 評

—第50回発明大賞「表彰式」を迎えて— 独創的な研究開発が 実を結んだ

1. 審査の経過

発明大賞の審査の経過について、ご報告申し上げます。

発明大賞の審査は、公益財団法人日本発明振興協会会長から委嘱を受けた 6 名の学識経験者で構成された審査委員会で行われました。

審査委員会は、

和田 雄二（東京科学大学名誉教授、一般社団法人 ZeroC 代表理事）

水野 浩太（文部科学省 研究振興局 振興企画課奨励室長）

黒部 篤（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター 理事長）

石原 聡（元科学技術振興機構 研究開発戦略センター シニアフェロー）

永島 雄介（東京都産業労働局 商工部 技術調整担当課長）

と、私・藤嶋で構成され、委員長をつとめましたので、私から審査の結果につきまして概略ご報告申し上げます。

この発明大賞には

- （1）発明大賞本賞、
発明大賞東京都知事賞、
発明大賞日本発明振興協会会長賞、
発明大賞日刊工業新聞社賞

からなる狭義の発明大賞と、

- （2）発明功労賞
- （3）考案功労賞
- （4）発明奨励賞
- （5）発明育成賞



発明大賞審査委員長
東京理科大学名誉教授

藤嶋 昭

の 5 種類の賞がございますことはご承知の通りです。

今年度は 53 件のご応募があり、協会から委嘱された専門委員による 2 回の予備審査を経て審査対象 32 件が選定され、さらに東京都立産業技術研究センターの方々に専門的立場から技術評価をしていただき、専門委員と推進委員による合同委員会の審議を経て、最終的に 27 件の案件が審査委員会に諮られました。発明大賞候補につきま

しては、専門委員による現地調査も実施されております。

審査委員会におきましては、専門委員から詳細な説明を伺い、（1）発明の新規性、（2）発明の優秀性、（3）発明の実用性の 3 要素を基準として慎重に審査した結果、発明大賞本賞ほか、全 25 件が選定され、本日の表彰式を迎えることになりました。なお、発明育成賞につきましては、今回は該当候補がございませんでした。

表彰の内容はお配りいたしております「発明大賞受賞者名簿」のとおりでございます。

次に、発明大賞本賞等の表彰対象となりました発明の内容を概略ご紹介申し上げます。

2. 受賞内容の紹介

まず「発明大賞本賞」が贈られますのは、『磁線を活用し鉄粉をフィルターにする精密 2 次ろ過装置』、有限会社ショウナンエンジニアリング様です。

金属の機械加工では、冷却や潤滑のために加

工油剤（クーラント）が必須となります。クーラントは継続使用で細かい金属粉や砥石砥粒が増加し、加工精度を劣化させる原因となります。そこで、切り粉を除去するためにフィルター式、遠心分離式、マグネット式などのろ過装置が今まで使用されてきました。

本発明であるマグネットインラインフィルターは加工の高精度化と耐環境性に配慮した2次ろ過装置で、従来にない斬新な発想に基づいています。クーラントが流れる流路の外側と内側にマグネットを配置し、発生する磁気によって切り粉ブリッジを流路に形成、成長させて切り粉自体をフィルターとして利用するものです。細かい切り粉も除去できるために加工精度向上に寄与できるだけでなく、クーラントの流れの中でろ過を行うので、クーラント量や汲み上げポンプの削減など耐環境、省エネを実現しました。さらに、成長した切り粉ブリッジは、磁気を切断することで切り粉が落下、押し流すことで簡単に清掃ができるため、メンテナンス性にも優れています。

現在、部品の多くは切削や研削などの機械加工で製造されていることから、加工コスト低減や品質向上に寄与する当該装置は、今後の普及が大いに期待できる発明品として高く評価されました。

〔2〕次に「発明大賞 東京都知事賞」が贈られますのは、『**大気成分の濃縮による農業用CO₂供給装置**』、株式会社西部技研様です。

イチゴ等のハウス栽培においては、その収量を多くするためハウス内のCO₂の濃度を高く調整する必要があります。

従来の技術は、ハウス内で灯油等の化石燃料を燃焼させてCO₂の濃度を調整するものでしたが、大気汚染物質が発生するなど環境負荷が大きく、また、ハウス内の温度が高くなるため温度調整が難しく、冬場など温度の低い季節等在使用期間に限られるといった問題がありました。

これに対し、本発明は、CO₂吸着材を付したローターを設け、低エントロピー状態、すなわ

ち温度が低い状態の空気をローターに通して空気中のCO₂をローターに吸着させる一方、高エントロピー状態、すなわち温度が高い状態にして空気をローターに通すことで吸着したCO₂をハウス内に放出して、ハウス内のCO₂の濃度を高めます。

本発明は、従来の燃焼式における課題を解決し、またランニングコストも安くなり、更に、火気厳禁の場所でも使用が可能で、適用できる場所が飛躍的に拡大する可能性がある点も高く評価されました。

〔3〕次に「発明大賞 日本発明振興協会会長賞」が贈られますのは、『**スマホ対応型軽量小型「水」総合管理システム**』、小松電機産業株式会社様です。

本発明は、上下水道の水位や流量の遠隔監視とその制御システムで、従来のテレメータ等で通信していたことを、クラウドを用いてスマホやパソコンからの操作を可能としました。

製品の特長は、従来のポンプの制御盤に比べ部品点数が1/5と少なく、軽量小型で耐雷性に優れ、既設の函体（かんたい）をそのまま使用できることにあります。その他にも、小規模なシステムでも東京と大阪の2拠点化したクラウド対応となっていること、管理データの見える化や災害時のリアル映像の共有化まで可能としたシステムであること、停電時でもバッテリー電源による端末のバックアップ監視を可能としていること、災害時には、タブレットやスマホからでも現地指令室として連携運用可能なシステムとなることなど、たくさんの機能を実現しています。

社会インフラ更新期の経費削減や災害復旧時の迅速な対応も可能としたシステムとして、全国510の自治体、18,200施設への納入実績があり、高い実用性が評価されました。

〔4〕次に「発明大賞 日刊工業新聞社賞」が贈られますのは、『**ダイカストのランナー加圧法による品質改善と生産性向上**』、株式会社ダ

イレクト21様です。

アルミなど軽合金の精密鑄造にダイカスト加工が広く用いられています。ダイカスト加工では溶湯を高速でキャビティ内に噴射することで製品を成形していますが、内部には必ず巣が発生しており、製品強度が損なわれる原因となっています。

本発明品である加圧ランナー装置は、ダイカストマシンのプランジャーによる「形を作る」第1射出の後、少し遅れてランナー部をピンで第2射出加圧を行う全く新しいダイカスト加工法です。これにより鑄造圧力が今までより3～4倍の300MPaとなることで巣を押しつぶし、内部品質を向上させることができます。後一押しの効果は、ダイカスト製品の品質向上だけでなく、サイクルタイム短縮による生産性向上や金型のダウンサイジングなど多くの利点を発揮します。

発明品のランナー加圧法はダイカスト加工業界全体の近代化に貢献する優れた発明として評価されました。

以上、発明大賞4件について概略ご説明いたしました。いずれも独創的な研究開発が実を結んだものであり、その実績も顕著で、本発明大賞の表彰対象として、ふさわしい発明です。

つづきまして、発明功労賞の表彰対象となりました発明の内容を順にご紹介申し上げます。

■発明功労賞 7件

『**エンジンウインチ**』 育良精機株式会社様
電源の取れない場所でケーブルの延線工事に使うエンジン式のウインチで、現場ニーズに基づき、安全性と操作性を兼ね備えた発明品として評価されました。

『**物体検出装置**』 旭光電機株式会社様
独立した検知スポット群の構成で、自動ドアの無駄開きを抑え付加価値を高めた自動ドアセンサの考案で、低コストかつ顕著な販売実績も評価されました。

『**フライヤー**』 クールフライヤー株式会社様
揚げ油の劣化や油跳ねを大幅に軽減した揚げ調理機に、劣化した油を分離するための回収機構を新たに取り入れ、環境に配慮したフライヤーとして導入先からも高い評価を受けています。

『**Web3及びAIを用いた真贋鑑定証明システム**』 熊谷絵美様

Web3を基盤にAI技術を導入し、モノだけでなく、映像や音声なども含めた不正アクセスやデータの改ざんができない、信頼性の高い鑑定証明システムが評価されました。

『**天板を跳ね上げずに移動と設置ができるテーブル**』 コトブキシーティング株式会社様
机の下に設置されたレバーを握ることのみで移動できる高い利便性と優れた安定性を両立させたテーブルとして、機能と実用性が高く評価されました。

『**スライサー及びスライス方法**』 株式会社ニッピ機械様
高速回転するバンドナイフの刃振れと位置を微細制御し、切れ味を持続する微細研磨技術で、幅広い軟質材料を高精度で連続的にスライスできる優れた装置の発明として評価されました。

『**ウレタン系塗料組成物および塗膜**』 株式会社ユニックス様
高温焼き付けができない産業機器へのフッ素樹脂加工のニーズに応える「機能性ウレタン樹脂塗料」として、そのスペックと効果が評価されました。

このほか、考案功労賞、発明奨励賞を贈呈する発明も、大変優れたご業績でございますが、時間の関係で説明を省略させていただくことをご容赦いただきたいと存じます。

これで、私の審査報告を終わらせていただきますが、最後に受賞者の皆様にご心からお祝いを申し上げます。

〒690-0046
島根県松江市乃木福富町
735-188
TEL：0852-32-3636